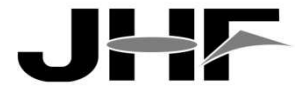


ブランク後のフライトを安全に楽しもう



JHF 安全性委員会

もう何年もフライトから遠ざかっていたが、久々に復帰しようという場合、久々のフライトに一抹の不安を感じる方も多いでしょう。実際に復帰フライトでの大小の事故も報告されています。

まずは性急な復帰フライトを避け、熟練した教員のもとで計画的に基本練習からのリハビリ行って、確実なチェックとブラッシュアップで安全を確保していくことが大切です。スカイスポーツではちょっとしたミスと不運が大事故に直結します。機材の扱いなどはすぐに思い出せるでしょうが、確実な飛行準備ができることも確認しましょう。そして肝心の離着陸の技術については、客観的に、そして最新の技術レベルで確認していくことが安全上とても効果的です。

多くの場合、昔と同じ離着陸の能力はあるだろう、という程度では安全で楽しい復帰フライトにはなりません。昔の技術レベルそのものに問題があったり、飛び続けるうちに本人の技術がさらにいい加減になっていたりするからです。その上にブランクがあるのですから、以前よりも高い技術を磨いて不安なく楽しい復帰フライトに臨みましょう。

復帰フライトの環境にも注意してください。飛び慣れていたエリアでも危険要素を謙虚に再確認し、使用機材も万が一の誤操作や風の変化にも対応できる安全性の高いものを、飛行条件も穏やかな安定した風を選びましょう。テイクオフ～ランディングまで安全に正確にフライトできるエリアで練習することも必要でしょう。

肉体的なコンディショニングも確認しましょう。特に中高年パイロットの復帰フライトでは、機敏な動きや体の柔らかさ、注意力の低下を自覚しづらいという問題があります。体重増など肉体的な変化で適切な機材が新たに必要になったり、使用機材がすでに老朽化していたり、という例も少なくありません。これも熟練した第三者の目でチェックしてもらい、余裕をもって対処していくことで、安全で楽しい復帰フライトにつながります。

なお、夏休みが取れるのを機会に復帰しようという場合、暑さによる疲労からくる注意力低下・判断ミスにも注意することが重要です。フライト活動を継続しているパイロットにも言えますが、ちょっとしたことで汗だくになってきたら安全パフォーマンス低下の警戒信号です。いったん休憩を取ってクールダウン。暑さ対策・熱中症への警戒を忘れないでください。また、内陸部のエリアでは夏の日中の高い気温では空気が薄くなって、離着陸での揚力の発生がやや不安定になることがあることにも注意してください。